

源平の戦い後の頼朝の政治	( )組	氏
	( )番	名

そうたさんは、平氏と源氏の戦いを学習する中で、自分の親せきが住んでいる椎葉村では、毎年「椎葉平家まつり」が行われていることを思い出し、調べてみると、この祭りは、椎葉に伝わる資料1のような伝説をもとに始まったということが分かりました。そうたさんたちの学級では、資料2・3の年表も見比べながら下のような話合いをしました。

資料1 「鶴富姫と那須大八郎の物語」

壇ノ浦の戦いの後、椎葉までにげてきた平氏の武士たちのもとへ、源氏の総大将頼朝の命を受けて大八郎が向かった。しかし、ひっそりと暮らす平氏一門を見て追討を断念。そのまま椎葉にやしきを構え、平家の守り神である厳島神社を建て、人々といっしょに暮らし始める。そこで、平清盛の子孫である鶴富姫と出会い、二人の間に恋心がめばえ、やがて二人は結婚する。しかし、大八郎へ鎌倉へもどってくるようにとの命令がとどき、こどもを身ごもった姫を置いて、別れが訪れた。

このとき処刑されなかったことで、生きのびた頼朝が後になって兵をあげ、平氏をたおすことになったといえます。

資料2

年	主なできごと
1159	源頼朝の父（義朝）を平治の乱で破る。義朝の子の頼朝や義経は処刑しなかった。
1167	太政大臣になる。
1172	①
1180	孫が天皇になる。
1159	平治の乱で平氏との戦いに敗れ伊豆に流される。（約20年間監視されながらの生活）
1160	
1180	平氏をたおすために兵をあげる
1185	弟の義経が壇ノ浦で平氏をほろぼす
1192	征夷大將軍となる

平清盛は、自分のむすめを天皇のきさきにしました。また、このころ、平氏の一族が朝廷の役職の多くをしめていました。

そうた： 壇ノ浦の戦いで平氏に負けたので、平氏はつぶれてしまいました。  
 先生： そうですね。平氏は、全国各地の山や川をめぐって、各地は、椎葉村の他にも、  
 ゆきこ： 「平氏にあらがったのは、平氏のついでに、平氏のついでに、平氏は栄華をきわめていたのに、どうして源氏に負けちゃったんだろう。  
 先生： 源義経の活躍など、いろいろな理由はあると思いますが、②貴族の藤原氏が栄えていたころと同じような政治を行った平氏に対して、まわりの武士たちの不満が高まっていったことも原因の一つかもしれませんね。  
 それにしても、壇ノ浦の戦いで決着がついているのに、源頼朝は、どうしてその後もしつこく平氏を追いかけさせていたのでしょうか。  
 りゅうせい： それは、③ だと思っています。

(1) 前のページの会話文中の下線部②のような政治として、資料2の年表の①の部分に行われたことを、下のア～エから1つ選び、記号をまるで囲みましょう。

- ア 家柄や出身地に関係なく能力や功績で役人を取り立てた。
- イ むすめを天皇のきさきとしたり、平氏一族を多くの重い役につかせたりした。
- ウ 仏教の力で国を治めようと願い、国ごとに国分寺を建てることを命じた。
- エ 中国から帰国した留学生らとともに天皇中心の国づくりを始めた。

(2) 前のページの会話文中の③に入る理由を、資料2・3の年表を参考にして頼朝の気持ちになって書きましょう。

平氏の一族のだれかが、自分（頼朝）のように生きのびて、将来、源氏を倒すために、兵を集めて戦いを始めるのをおそれたから。

#### 資料4 「源頼朝と宮崎県（日向国）の武士との関係」

- ㉗ 平氏が滅亡した壇ノ浦の戦いから3か月たった1185年5月、宮崎県（日向国）の武士の富山義良らを鎮西御家人（九州地方を治める家来）とする命令が出された。
- ㉘ 1189年の源頼朝による陸奥国（東北地方の一部）の藤原氏との戦いには、島津荘北郷（都城・北諸県地方）の武士も加わっている。
- ㉙ 後の宮崎県（日向国）で大きな力をもつ伊東氏の祖先である工藤祐経は、源頼朝の家来で東国の武士であったが、源頼朝から、1190年に、宮崎県（日向国）の中の一部の領地の管理・支配の権限をみとめられた。

※「宮崎県の歴史」山川出版社より作成

㉗と㉙は頼朝から家来へ与えられた「ご恩」、㉘は家来から頼朝への「奉公」にあたります。

この本を参考にして、源頼朝と当時の宮崎県の武士たちとの関係について読みましたものです。これを読んで、壇ノ浦の戦いの武士たちを従えていったのか考えてみましょう。㉗も、「ご恩」と「奉公」の関係のうち④

に当たりますね。

ゆきこ： でも、よく読むと㉗と㉙にはちがいがああるよ。

先生： 全国の武士を従えるために、いろいろな形で④の関係を保とうとしたのかもしれないね。

りゅうせい： ㉘を読むと、東北地方の戦いに、わざわざ宮崎からかけつけて参加していることがわかるね。すごいね。「いざ鎌倉」ということばどおりだね。

(3) 上の会話文中の④には、「ご恩」と「奉公」のうち、どちらの言葉が入るか選んで書きましょう。

ご恩

(4) 上の会話文中に㉗と㉙にはちがいがああるとありますが、下の文はそれぞれ㉗と㉙のどちらについて説明したものですか。( )の中に㉗または㉙の記号を書きこみましょう。

( ㉙ ) 元々家来であった武士に、新しい領地をあたえた。

( ㉗ ) 役職や領地をあたえて新しい家来をつくっていった。

(5) 頼朝が他の武士たちを従えていった様子を、「ご恩」「領地」「奉公」「いざ鎌倉」ということばを用いて文章にまとめて書きましょう。

頼朝は、家来になった武士たちに、ご恩として新しい役職や領地をあたえた。それに対して、家来になった武士たちは奉公をちかい、戦いが起これば「いざ鎌倉」とかけつけ頼朝のために戦った。